

RS485 無線化ユニット 設定データ使用方法

本資料は RS485 無線化ユニット取扱説明書の補足資料です。同取扱説明書に記述されている設定ツールソフト（MP-D12）を使用して無線化ユニットの設定を行う際の参考にしてください。

代表的な RS485 機器（例 KM20/KM50/BT3720 等）用の設定データを弊社ウェブサイトからダウンロードすることができます。設定ツールソフト（MP-D12）起動時にその設定データを読み込ませることで、機器に対する設定作業を一部省略することができ大変便利です。是非ご活用ください。

設定データ使用方法

① 設定データファイルのダウンロード

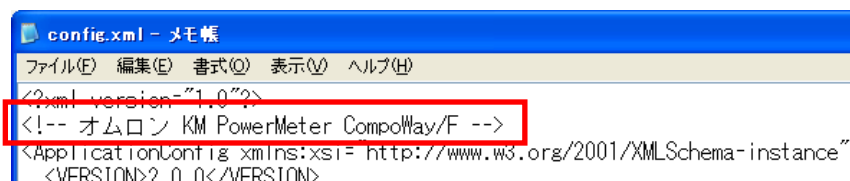
下記の弊社ホームページから RS485 機器の設定データをダウンロードしてください。

<http://www.xbow.jp/rs485config.lzh>

解凍しますと機種別フォルダに設定データファイル“config.xml”ファイルがあります。



設定データファイルを右クリックし、テキストエディタで開くと下記のように適合機器のコメントが記述されています。ファイル確認の参考にしてください。

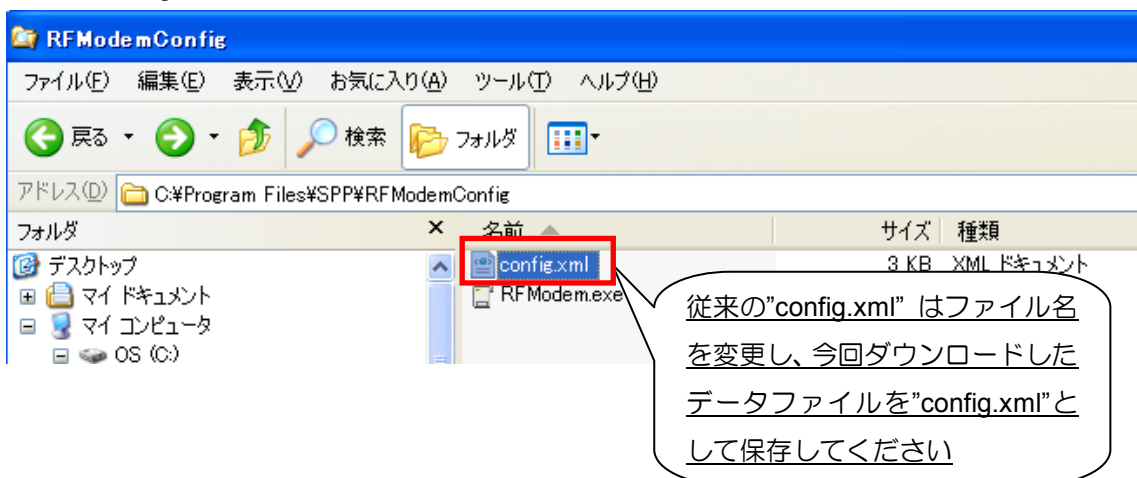


弊社ホームページに所望の RS485 機器の設定ファイルがない場合、お手数ですが通信仕様書を添えてクロスボーまでお問い合わせください。

② 設定データファイルのコピー

設定ツールソフト（MP-D12）がインストールしてあるフォルダにはすでに設定データファイル“config.xml”があります。これは工場出荷状態へ戻すのに必要ですので、この“config.xml”は別の任意のファイル名に改名してください。そのあと、①でダウンロードした“config.xml”を同フォルダに保存して下さい。

例)「C:\Program Files」にインストールしてある場合



③ 設定ツールの起動

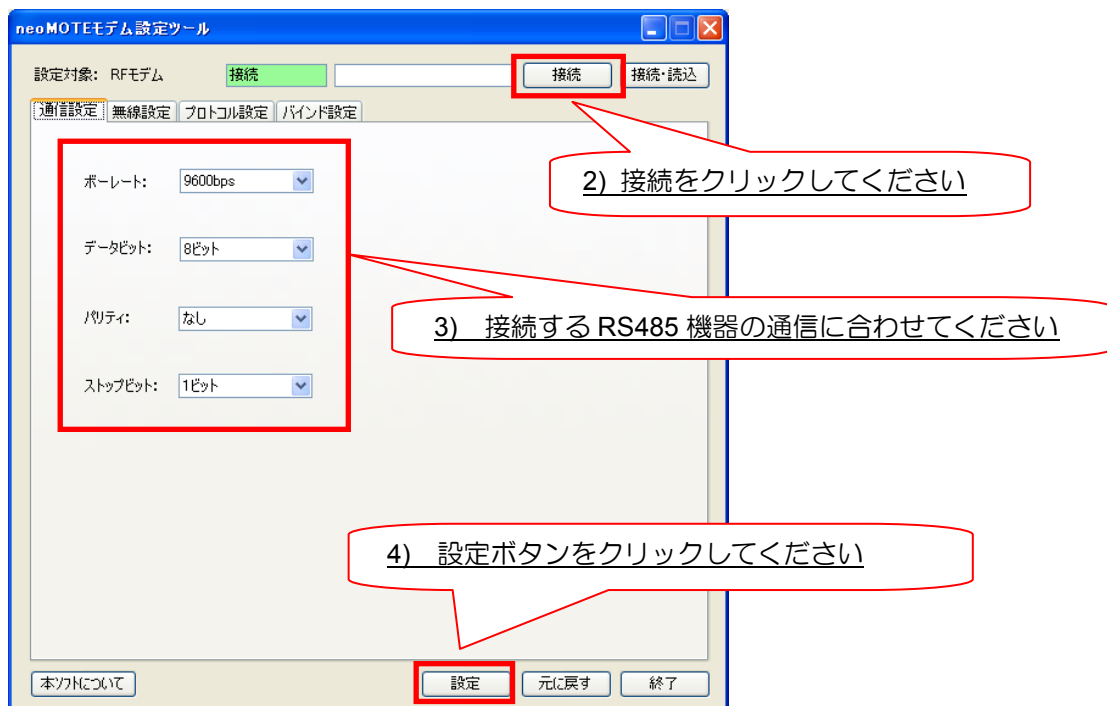
設定ツールを起動してください。次の画面のようにプロトコル設定に機器のプロトコルがプリセットされます。

例) オムロン Compo Way/F プロトコルの場合



通信設定タブをクリックし、下記手順に従ってください。

1) RS485 無線化ユニット本体を工場出荷状態に戻してください（取扱「システムの運用」項参照）



以上で設定は完了です。同一ネット内で使う各 RS485 無線化ユニットに同じ設定をしてください。